



追悼特集号 第65号 2021年4月15日発行
〒600-8154 京都市下京区岡之町通下珠数屋町上ル
榎木町306 坂口ビル2F
TEL 075-352-2640 FAX 075-352-2646
HP <http://www.attaka-support.org/>
E-mail attaka-support@r6.dion.ne.jp
郵便振替口座 00900-2-264244
特定非営利活動法人 あったかサポート 理事長 澤井 勝



故笹尾達朗 追悼特集号

認定NPO 法人あったかサポート第16回総会のご案内	編集部	2
追悼 特別寄稿		3~5
一般寄稿		6~16
参与・理事・監事寄稿		16~20
「あったか歳時記」(春)	上野 都	21
編集後記	編集部	22

私たちは笹尾さんの「夢」を引き継ぐ

認定NPO 法人あったかサポート理事長 澤井 勝

あまりにも早く逝ってしまった笹尾達朗さん。初めてあなたとお会いしたのは、「あったかサポート」の第2回の総会あたりだったと思います。その後、私が役を引き受けてからは、役員会とその後の飲み会。そして、セミナーなどの後の、これも飲み会の端に座らせてもらいながらでしたね。決してお酒は強くなかった。宴半ばで、ときどきとうとうとしていることもありました。

そして、そういった中で、少し饒舌だったのは、社会保障への熱い思いでした。人と人のつながりに裏打ちされた社会保障制度の確立。そういった夢を目指して、あなたは、病の床で、体の不調と闘いながら、社会復帰の気持ちをぎりぎりまで捨てませんでした。それも、「もういいか」という気持ちへの揺らぎを率直に明らかにしながら、生きる可能性を信じて。そこに希望を見出すことが、人の強さでもあるとも考えて。

笹尾さんはやさしかった。人の悪口

を聞いたことがなかったと思います。意見の違いは、やわらかに指摘するけれど、人を攻撃することはありません。

「あったか情報」の20年夏号には、『今回、無事に退院できることができれば、長い人生こころで一休みです。一息ついたところで、NPO 法人としてガン患者経験者への社会復帰・社会参加支援の視点から「実生活に役立つ、わかりやすい社会保障」の小冊子の発行に向けた構想を立案したいと思っています』と書かれています。この夢はついに実現しませんでしたね。

私たちもまた、できるだけ当事者の思いに寄り添うことができるような努力をしたい。その努力をしながら、笹尾さんとともに、「見知らぬ他者との間にながしかの共通性に基づく、共感が人々の中に生まれること」(情報第2号)を期待します。私たちは、笹尾さんとこの社会保障の充実という「夢」を共有していると思います。彼の思いと希望を私たちに引き継いでいきたいと強く思います。

認定 NPO 法人あったかサポート 第16回総会のご案内

コロナ禍により、人々の生活スタイルや働き方が大きく変化してきており、これまで以上に共助を軸とした「あったか社会」の構築が求められています。

第16回定期総会を下記要領で開催いたします。会員の皆様の積極的な出席をお願いいたします。欠席の場合は同封の委任状を必ず提出して下さい。

なお、第2部「笹尾さんお別れ会」、第3部「記念講演」は会員以外の方も参加できます。同封のハガキかメールまたはFAXにて5月15日までに申し込みください。三密を避けるため定員は50名（関係者を除く）とさせていただきます。

日 時 2021年6月6日（日） 10時～16時30分

会 場 京都テルサ 大会議室（東館3階）

第1部 第16回定期総会 10時～11時

- 第1号議案 2020年度 事業報告
- 第2号議案 2020年度 決算報告（監査報告）
- 第3号議案 2021年度 事業計画
- 第4号議案 2021年度 活動予算
- 第5号議案 役員改選

第2部 笹尾達朗さんお別れ会 13時～14時

会社勤務を捨て、無私利他の心でNPO 法人あったかサポートを立ち上げ、常務理事として多くの人々とつながり、共助を軸とした「あったか社会」実現をめざして活動してきた故笹尾達朗さんのお別れ会を開催します。ご縁をいただいた皆様のご参加をお待ち申し上げます。

・黙祷 ・献花 ・スライド上映 ・弔辞

第3部 記念講演 14時30分～16時30分

日本版「同一労働同一賃金」の現状と課題

講師 中島 光孝 弁護士（大阪弁護士会）

参加費 1,000円

2020年4月に施行され、本年4月から中小企業にも適用された、いわゆる日本版「同一労働同一賃金」（短時間・有期雇用労働法）について、日本郵便、大阪医科薬科大学、東京メトロ子会社の5つの訴訟をめぐり、新たに最高裁判決が出されました。大阪労働者弁護団の中島光孝先生をお招きして現状と課題を解説していただきます。

*全体を通し、感染予防（検温実施、マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス確保）を行いますのでご協力をお願いいたします。

今も続く笹尾達朗さんとの対話

弁護士 中島 光孝



笹尾達朗さんとの対話は今も続いている。折りに触れ、「今、こんなことを考えているんやけど」、「お、それいいな」などの言葉がこたます。

笹尾さんとの出会いは井上二郎法律事務所での弁護士活動を始めて1年目の1993年春であった。

当時、井上事務所は京都労災福祉センターの宮入さん、半田さん、宇野田さん、そして笹尾さんとの交流があった。私は、同センターから紹介のあったK氏のジストニア労災案件を担当することになった。ジストニアは、中枢神経系の障害による不随意の筋収縮による運動障害である。私は、審査請求（棄却）、再審査請求（棄却）、不支給処分取消訴訟（一審認容、二審棄却）を担当した。

この過程で交流が深まり、あったかサポート設立についての2005年夏の記者会見には、初代理事長の森さん、笹尾さんとともに私も同席した。私は

笹尾さんの要請により当初は副理事長ということになった。

あったかサポート設立の後、しばらくは定期的な運営会議に私も参加した。そして、年に数回の学習会や講演会を笹尾さんに頼まれた。要請の始まりは冒頭の言葉であった。

笹尾さんから出てくる企画内容は概ね私も賛同するものであった。それに私が意見を述べる。そして次第に企画の概要が固まっていく。

そうしたことが10回以上はあったのではないだろうか。話をしているうちに私のほうも問題の所在に気づかされる。

今思うに、これはまさにソクラテス式問答法による無知の知に至る過程であった。

「お、それいいな」、「こうしたほうがいいんと違うか」など、担当する事件で考えあぐねているときなど、今も笹尾さんと対話をしたりしている。

ただ今は不屈の生涯を終えた笹尾さんには安らかであれとお祈りし、追悼の言葉にかえさせていただく。

出逢い・コラボ・別れ——笹尾達朗さんを悼む

法政大学キャリアデザイン学部 教授 筒井 美紀



新日吉神社の木々の梢を眺められる研究室で、ある日、郵便物をチェック

していたら、ピンク色の大判封筒が現れた。「あったかサポート」の印字。筆ペンで墨くろぐろと書かれた差出人の名前には「笹尾達朗」とあった。

二〇〇〇年代半ば、私が京都女子大学に勤め始めて間もない頃のことである。地図を広げると、事務所はすぐ近く。連絡し、自転車を駆って訪れた。それが笹尾さんとの出逢いであった。

私たちは「速攻で」意気投合した。リアルでわかりやすい労働教育が、正義が、学生たちに不可欠だ、と。『蹠膳』に処を移しても議論は延々と続いた。笹尾さんの記憶は、私がネタに困って出前授業の相談に來たのだと塗り替えられているが、まあこれは笹尾さんのお茶目なおっちゃんぶりを語るエピソードのひとつといえよう。

話を戻すと、労働相談の実例に基づく教材は「他人事ではない」と痛感さ

せるものであった。同時に笹尾さんの語りかけは、「でも頼れる人がいるんだ」と学生たちを勇気づけるものであった。リーマンショック後、内定切り、三年任期だが「基本」無期転換と謳う新卒採用、実は請負契約の「就職」などが続く。笹尾さんとのコラボで、学生からの相談を前に備えができた。

二〇一〇年に法政大学に移ってからも暫く、同志社大学でのシンポジウムなどで学生ともどもお世話になったが、勤務先での多忙化で、京都とは少しずつ間遠になってしまっていた。

そこに、ご病気との連絡。あったか夏号と秋号の闘病記は、受苦(Passion)と情熱(Passion)に溢れていて、私は辛い予感がした。十月中旬、これが読んでもらえる最後のメッセージになるかもしれないと思いつつ、絵葉書を投函した。「労働者支援は不滅です」と末尾に書いた。これが笹尾さんの公人としての魂を表わす一番の言葉だと、私なりに考えたからである。笹尾さんのご冥福を心よりお祈り致します。

やさしい人、笹尾さんの思い出

同志社大学政策学部 教授 川口 章



私ははじめて笹尾さんにお会いしたのは、あつたかサポートが設立された

直後です。友人から「面白い人たちがいるから紹介するわ」と誘い出されました。

途中、「あつたかサポート」という名のNPO法人を設立した人たちだと聞き、怪しい団体でないことを祈りました。着いた先が、居酒屋の二階です。恐る恐るふすまを開けると、笹尾さんと目が合いました。笹尾さんがニタツと笑うのを見て、「やっぱり来るんじゃないかと」後悔したのを覚えています。

しかし、話を始めると、第一印象は吹っ飛びました。怖い人ではありません。それどころか、無私無欲、困っている若者、労働者の味方です。今時、こんな人がいるのかと驚くほどやさしい人でした。その思いは、笹尾さんとお話をするたびに強くなり、15年以上もお付き合いをさせていただくことにな

りました。

笹尾さんには、毎年、ゼミや講義のゲストスピーカーをお願いしました。シンポジウムも2年に1回くらいのペースで共催しました。

関西弁で学生に語りかけ、学生を話に引き込むのがとても上手でした。難しい法律の話を、やさしく、わかりやすく、例を挙げて話してくれます。就職活動での圧迫面接、ブラックバイト、セクハラ、パワハラ等、その時々ホットな話題をテーマに話していただきました。

学生の質問にも見事に対応されます。時には学生に共感し、時には学生をたしなめ、軸がぶれることがあります。そこは、私には真似ができません。そこは、私には真似ができません。

なぜ軸がぶれないのか―それは、根本に法律と法の精神があるからだと思っています。

社会保険労務士の鑑のような笹尾さんがこんなに早く逝かれるとは、残念でなりません。心よりご冥福をお祈りいたします。

笹尾さんからいただいた「お裾分け」

立命館大学産業社会学部 教授 櫻井 純理



笹尾さんは、毎月大阪で開いていた研究会「職場の人権」の例

運んでくださっていました。私が笹尾さんと出会ったのも、たぶん何年も前のいつかの例会だったのだと思います。笹尾さんがあつたかサポートを組織されてからは、その活動にも参加させていただく機会がありました。大学のゼミに来ていただいて、労働法に関する講義をしていただいたこともあります。笹尾さんはあのよく通る声で学生に強く語りかけるので（叱咤激励）、「次はもう少し優しく教えてくれる女性の先生をお願いします」と失礼なお願いもしましたが、あれは笹尾さんならではの若者への期待と愛情の表れでしたね。

あつたかサポートが毎年、学生の就職をテーマにした企画を秋に実施されるようになってからは、その企画に加わったり、ゼミ単位で参加したり、ということもありました。笹尾さんと最後にお会いしたのも、2019年11月のシンポジウム「大学生のインターンシップの功罪を考える」

におじゃました時です。刺激を与えるつもりで、ゼミの学生のなかから、ふだん口数の少ない2名を連れていきました。懇親会では様々な参加者の方が2人に声をかけてくれて、彼らもあれこれ話をしました。おかげさまで2人とも就職が決まりました。来春からは社会人です。

笹尾さんは、人と人をつなげる名人でした。私はあつたかサポートのイベントで知り合いが増えて、それをずいぶん仕事に活用させていただきました。寺内製作所さんにもゼミで見学に行かせてもらいました。反対に、笹尾さんから「ちよと今度こんなことやろうと思ってるんやけど、いい人知らんかな?」と尋ねられたこともあります。そうやって、どんどん新しい繋がりを開拓して広げてこられた、笹尾さんのお人脈をお裾分けしてもらっていたわけですね。そういえば、さっき、近所のスーパーで「清見オレンジ」を見かけて、「田舎から送ってきたから」と、笹尾さんがたくさんお裾分けして下さったことを思い出しました。あの優しい笑顔も大きな声も決して忘れません。心からご冥福をお祈りいたします。

道しるべ

京都新聞記者 本田 貴信



12年前のノートに、初めて笹尾さんを記事にした際の取材メモが残っている。

「歯がゆい」。笹尾さんは怒り、憂えていた。「法律や権利を盾に、困難へ立ち向かうための教育がなされていない」。時代はリーマン・ショックのただ中。身を守るすべとして、労働者が法知識を駆使することは不可欠なのに、若者が裸身で労働現場へ放り出されている。

時を経て読み返してみても、熱が伝わる。あの語り口とあの表情が、思い浮かんだ。

20代半ばだった私に、「ええか」と笑みを浮かべて、「余人をもって代え難い仕事なんてないんやで」と話してくれた笹尾さんが忘れられない。

重い仕事を抱えた時に反すうすると、今でも気分が楽になる。その言葉の意味を咀嚼し、自らを励ましもしてきた。

誰にでも取って代わられる存在なら、せめて自分が心底納得できる仕事を一つでもつかもう。そんな風にして、今

まで記事を書き続けてこられた。

四十九日が明けた1月中旬の夜。笹尾さんと活動を共にした仲間の一人と会った。

その日の朝、彼女の暮らすまちは、霧に包まれたそう。彼女は、白く視界が閉ざされた住宅街にふと晴れ間が差し込んだ冬の景色を思い返し、「これ、笹尾さんに伝えたいな、と思った」とつぶやいた。彼女は、生前の笹尾さんに季節の移ろいを届けようと、病床へ何度もメールを送っていた。

誰にも会えないベッドの上で夏を越し、孤独にあらがいがながら秋の終わりに逝った笹尾さん。離れていても、仲間たちは確かに笹尾さんを思い続けていた。

この会報に掲載された闘病記をきっかけに、笹尾さんの最期の1カ月を取材した。笹尾さんが仲間たちの胸に刻み込んできたメッセージに、いくつも触れることができた。

人と出会え。人とつながれ。人を孤独にさせるな。そんな言葉が新たにノートを埋めた。また一つ、あなたは道しるべをくれた。



2014年12月13日 同志社大学
「関西学生就活サミットシンポ」



2014年 京都府立鳥羽定時制高校「人権研修会」にて



2015年 あったかサポート10周年記念シンポジウム



2015年2月 就活サミット

一般寄稿

笹尾さんを偲んで

浅井 醉眠

笹尾さんは、重い病魔と闘いながら69歳の若さで人生を全うされました。

まだまだ、お仕事（あったかサポート）にプライベート（居酒屋交流会）にと、お元気に駆け回っていた姿が小生の臉に焼き付いて、笹尾さんの死を受け止められない状況です。

小生、笹尾さんとのお付き合いが深くなったのは、笹尾さんの実家が大大で帰郷の際、博多に立ち寄り、必ず声をかけて下さり、中洲の居酒屋と屋台ではしごをしていました。

同席は毎回縄崎さん、笹尾さん、小生の3人でした。その事が御縁で、あったかサポート設立総会に参加させて頂きました。

記憶にあるのは総会終了後の交流会で、「10年後にあったかサポート続いているだろうか」と、ユーモア発言された言葉が印象に残っています。

あったかサポートの年次総会には、毎回上洛し皆様とお逢いできる事楽しみにしていました。

総会後の交流会、京都の夜、酒を酌み交わしカラオケ、口角泡を飛ばす皆様に同席させて頂き、その中心はやっぱり笹尾達朗さんでした。残念で悔しくなりません。

激動の人生を歩んで来られた笹尾達朗さん、今まで有り難うございました。来世でゆっくりお休み下さい。

合掌

出会いと別れ

元桃山学院大学教員 伊藤 正純

笹尾さんとの出会いは研究会「職場の人権」。郵政の組合員で鋭い質問がでる喋れる人がいるのに驚いた。NPOあったかサポートを立ち上げるので会員になってほしいと頼まれた。ところが私も忙しく定期総会に参加したのは2006年6月3日の「1周年の記念シンポジウム」が初めて（手帳と日記で確認）。同年9月27日、「あったかサポート」の事務所を訪ね、初めて二人で飲んだ。私があったかサポートで報告したのは3回。①翌々日の9月29日の「若者と雇用」シリーズで、「格差社会に若者が雇用されるとき、その現状を考える——企業社会の要請に教育行政はどのように応えているのか——」を、②2007年11月2日の「正規雇用を前提にした年金制度を問う年金二元化しかない」そして③2008年11月14日の「スウェーデンの税制度に学ぶ わが国の社会保障制度」である。初期の頃、年に1回報告していた。2007年1月13日の「職場の人権」では、私の報告「穴だらけの日本の社会保険——労災・雇用保険・健康保険・年金」のコメントターに、笹尾さんになってもらった。勉強させられ勉強した。

別れは、2020年3月11日のラポール学園での高瀬高明「年金の財政検証」。「コロナ禍のなか、こんな難しいテーマでは参加者が少ないだろうから来たよ」と言うと、ニコニコ顔で「家は通常通りやっていますよ」と返事してくれた。これが最期になるとは想像だにしていなかった。

話の広がり圧倒される

伊藤 純夫

笹尾さんと最後にお会いしたのが、昨年（二〇二〇年）一月中旬、京都テルサ一階の喫茶店で、私も退職者組織の研修会への講師をお願いのためでした。

研修会のテーマは「年金」でしたが、私の方から「年金制度の説明ではなく、現役世代の思いと、様々な課題をどうするのか」をお願いしました。笹尾さんからは快く承諾していただきました。

さらに笹尾さんから「全世代型社会保障制度改革にも触れなければならない」また「AIによって企業はすでに雇用調整を準備している」など、あったかサポートが求めている課題が次々と出され、最後に「研修会では話す時間がもう少し必要」と言われました。

喫茶店でおよそ一時間半、講師のお願いが、様々な課題に広がり圧倒されてしまいました。

その後、研修会は新型コロナウイルス感染拡大により昨年5月予定から同年10月に延期、笹尾さんにその旨連絡すると「延期は了解、ただし現在入院しているの10月の講師は辞退したい」とのことでした。私は初めて笹尾さんの入院と体調のことを知り、気がかりになりました。

まさかこんなに早くお亡くなりになるとはたいへん残念です。あったかサポートの活動を築いた笹尾さんの「オルグ力」に敬意を表します。ありがとうございました。

笹尾さんを偲ぶ

福祉工房P&P

岡村 俊裕

この度、「あったかサポート」の軸と活動され、会員の皆様に親しまれた笹尾さんが逝去されましたことを心からお悔やみ申し上げます。

さて、私と笹尾さんのご縁は、当法人で理事をされていたことからでした。

初めてお目にかかった際は、運営委員会の中でのことでしたので、何か難しそうなかつ堅物のイメージがあり怖い雰囲気を感じ出されていたことを思い出します。

しかし、会議が終わり食事や飲み会になると、ガラッと人が変わったように、おもしろく、気さくで、暖かいお人柄に変わられます。

まさに、仕事には厳しく仕事以外にはやさしく人情厚く人間味あふれた尊敬すべき方であったと思います。

会社組織の中で、如何に人が大事か、またその大事な人を如何にして使うか労務管理的な視点からいろいろ学ばせていただきました。

研修があるごとに声をかけてくださったり、研修後の飲み会にも気軽に誘ってくださりその道のスペシャリストに交流させていただく機会を提供してくださったりと本当に私のような未熟者にもご配慮くださり本当に感謝しております。

笹尾さんの教えを心に刻み社会発展のために仕事をしていきたいと思えます。

追悼の言葉

喜多

和美

昨夏、入院中の笹尾さんから『あったか情報』（2020年夏号）で私が書いた書評について、電話をいただいた。「良く書けているよ。ありがとう」。それが最後の会話になるとは……。本当に私はうかつだった。

これまでも原稿を書くとき、笹尾さんから感想の電話がかかっていた。原稿がもうひとつの時は、奥歯に物の挟まったような微妙な言い方をされるのがおかしかった。また良い本を紹介してくれてありがとうとお礼を言われたこともあった。意外と気配りの人だった。

次に書く原稿について龍谷大学近くの喫茶店で、話をすることもあった。落ち合う前に笹尾さんはよく龍大の社会科学研究所に寄って、労働法関係の雑誌に掲載された論文をコピーしてきたと言っていた。常日頃、研究を怠らない人だった。

喫茶店での話は、原稿の話に留まらない。学生時代の話、読んでいる本の話、その時々々の社会情勢の話など笹尾さんが話し、それに対する私の意見も聞いてくれて、話が尽きなかった。

最近でも、本を読んだ時、ニュースを見ている時、ふと笹尾さんはこの問題について何て言うだろうと考えている自分に気が付く。その度に「ああ、もう話ができないのだ」と自分に言い聞かせる。

この寂しい現実を受け入れることがまだできないでいる。

感謝

社会保険労務士

小林 さゆり

笹尾さんに初めてお目にかかったのは、まだ私が社労士になる前、貧困問題に関するセミナーに参加した際に、笹尾さんが労働災害についてお話を来られていた時でした。その時はお話をお聞きしただけでしたが、あったかサポートの機関誌をいただき活動内容を知って、社労士になった暁には入会したいと思いました。

社労士になってすぐにご縁があり、笹尾さんにお会いしてあったかサポートに入会させていただきました。それから約3年という短い期間でしたが、笹尾さんから様々なことを教えていただき、仕事上のアドバイスもいただきました。また、出前授業や労働相談といった活動、シンポジウムへの参加など、多くの機会をいただいたことに、心から感謝しています。

笹尾さんは常に、時代の一歩二歩先を見て次の活動を創出しておられました。社会の変化を敏感に捉え、これから社会課題となるようなことが何か、何を伝えるべきか、ということをもいつも考えておられたと思います。

もったい로운なことを学ばせていただきましたのですが、悲しいことに、それは叶わないこととなってしまうました。

でも、これからも、笹尾さんの深い見識と知恵を思い出し、自分なりに社会の変化を見通しながら、あったかサポートの活動に取り組みたいと思っています。

笹尾さん、本当にありがとうございました。

感謝と追悼

佐藤 史子

「私の霧が晴れて、光が射し込んでくることを願っています。」

これがスマートフォンに残る、笹尾さんから私への最後のメッセージになりました。

このスマートフォンで何度笹尾さんと話したでしょうか。あんな、ちよつと話したいことがあつてな、頼みがあるんやけど……から始まり、ぞうか、それは良かったーワハハハと快活な笑い声に繋がるやりとりを何度繰り返したでしょうか？その笑い声で、時に落ち込んでいた私の霧を、幾度晴らして、光を射し込めてくださったのでしょうか。思い返すたびに目頭が熱くなります。私に限らず笹尾さんと面識をお持ちの方は、おそらく同じ思いをお持ちだろうと拝察しています。

笹尾さんの人への慈しみから生まれる言葉かけは、笹尾さんの人生、経験、軌跡から絢ぎ出されたものであったのでしょうか。後から続く者に常に光を当て続けてくださった笹尾さん。感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。

笹尾さん、天上では光が差し込んでいますか？笹尾さんの周りに、かつてと同じ、いやそれ以上の多くの方が集まって、みんなで霧もコロナもみんなワハハと吹き飛ばして、今までのように、語り、討論し、呑んで歌ってできていますか？これからは、空を見上げて耳を澄ませて聞かせてもらいますね。空に向かって相談させてもらいますね。そして少しでも笹尾さんに近づけますよう、精進してまいります。

追悼の言葉

篠原 耕一

笹尾さんは、ある日事務所に訪ねて来られ、「講師をしてくれへんか？」という依頼を皮切りに、あれやこれやと様々なことを頼まれ、この先お付き合いを続けていけるのだろうかと不安になるほど、実に頼みごとの多い人でした。

お付き合いを続け、すっかり打ち解けると、逆にこちらからの頼みごとが多くなり、笹尾さんはいつも快く引き受けて下さり、いつしか身近で頼もしい先輩として、なくてはならない存在になっていました。

「そのうちお礼しますからね」と言えば、いつも「かまへん、かまへん。人と人がつながるのが嬉しいんや」と、見返りを求めない人でもありました。

笹尾さん。専門士業をはじめ、あなたが紹介して下さった方々はみなとても真摯で、暖かい助言を下さいました。昨年あなたが事務所まで連れてきて下さった人は、私が望んだとおりの優しい人で、今年正職員になって頑張ってくれています。仕事で対面した労働組合の方からは、「あつたかで講師してるということは、笹尾さんの知り合いですね。信用しています。」と言われました。

いろんな局面で、たくさん助けてもらい、いつも立てて下さり、今更ながらいかに頼りにし、いかに大きな存在であったかを痛感しています。

叶うなら、もう一度一緒に仕事をしたかったです。社会を照らすやりのある仕事を。そのあといつもの懇親会で、もう一度大いに語り合いたかったです。

笹尾先生

出口 正章

私たち社会保険労務士法人ティグレと笹尾さんとの最初の出会いは2006年8月25日（金曜日）でした。

その後あつたサポートのセミナーへの参加や懇親会で笹尾さんとお話しさせていただくことが多くなり、正直者で真つすぐまた物事に動じない性格の笹尾さんにいつしか私たちも頼るようになりました。個人的に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は私自身2008年に社労士試験に合格し笹尾さんに報告した時、非常に喜んでくれたことが今でも忘れられません。合格祝にファミレスで夜中2時まで飲み明かしご馳走になりました（その時笹尾さんは珍しく酔っていました）。

また当時私の職場の男子職員4名が独身であることを知った笹尾さんは、知り合いの独身女性とのコンパを開いてくれました。これは笹尾さんの若者への思いやりとコンパを開催する笹尾さんの意外な一面を感じました。

先日、部屋の中を整理していると、2012年1月28日の笹尾さん還暦祝いの写真を見つけ、「あのころはまだ若く元気やったなあ、もう会われへんねんなあ」と思うと無性に寂しくなりましたが、これからはごゆっくり休んでください。有難うございました。

追想 ― 彼との邂逅 ―

中川 元

「不思議な橋がこの街にある。渡った人は帰らない――浅川マキの唄の一節である。

人は生涯で、幾度と橋を渡り、あるいは佇むのであろうか。

彼とのことを語らねばならない。

彼と初めて出会ったのは、今から十六年前の夏の日、あったかサポート設立総会の場で、確か〴〵に荘ではなかったか。初対面の私に対して、彼は長年の知己であるかのように笑顔で話しかけてきたのです。その時から彼は、私の通称である〴〵さんと呼ぶようになり、以来あったかサポートの末席に連なり、何度も彼と共に飲み、語り、歩き続けてきたのです。

どのような組織・団体も、入って来る人がいれば、去っていく人もいる。だけど、亡くなることで去っていく。これほど哀しくて、寂しくて、辛いことはない。物江和子さん、上谷耕造さん、岡江晃さん、小林竹廣さんとかけがえない同志たちが黄泉のくにへ旅立っていかれたが、よもや彼の名前がこんなにも早く続くとは。彼と同年齢の私も古稀を迎え、就活の準備をせねばと思っている。

笹尾達朗さん、私も必ず参ります。それまで蓮の花の横で、酒でも飲みながら待っていてください。でも、その時、〴〵さん、来るのが遅かったやないか」とはいわないでよ。

合掌

笹尾さんとの思い出

中谷 一郎

笹尾さんとの最大の思い出は、私が高雄病院に勤務していた頃の事です。

糖質制限食を普及させるために、彼にいろいろ協力してもらいました。私と一緒に様々な人を尋ね歩いたり、私の講演会を設定してくれたり、高雄病院の本を宣伝してもらったり……。

その当時、糖質は誰も知らない専門用語でした。それが現在では、みんなが気軽に使う日常語になっています。私見では、このような状況を作り出す事ができたのは、笹尾さんの尽力による所も大きく、大変感謝しております。

笹尾さんに対する私のイメージは、「お人よし」「軽いフットワーク」「時々ピントが外れるが、なぜか憎めない」といったところでしょうか。簡単すぎてごめんなさい。

10年程前に、私は双極性障害という精神病になり、たいへん辛い思いをしました。仕事も続けられなくなり、おかげさまで、現在は病気も良くなり、たいへん有意義な余生を送っています。

とはいえ、私ももうすぐ高齢者の仲間入り。いずれ、笹尾さんの元に行くでしょう。その時は、そちらでいちばん上等のお酒と一緒に飲みましょう。もちろん、笹尾さんのおごりで……。

追悼 あなたの希望を道しるべに

〴〵創造館副館長・就労支援員 西岡 正次

一時退院され自宅に戻られるとお聞きして、お会いしたいと願っておりました。それが叶わず急な訃報に悔しくてたまりません。笹尾さんとの思い出は、あったかサポート主催の労働判例の研究会が最初でした。当時、豊中市で雇用労働・就労支援を担当しており、労働相談の内容が変化し始め、不当解雇や賃金不払い等に代わっていじめやメンタルヘルス等を主訴とする「泣き寝入りは嫌」という相談が増えていた。豊中市は労働紛争の解決支援として労働相談だけでなく独自「あっせん」制度や訴訟費用の貸付を行うなど、雇用の質や働き方に向き合う自治体の一つで、笹尾さんたちの公開の判例研究の場は貴重な機会であった。大阪から京都まで足を運び必死にメモをとった。その後、現在の生活困窮者自立支援制度の誕生につながる「パーソナルサポートモデル事業（内閣府）」で笹尾さんは京都の取組みをリードされて、京都と大阪との間で、就労支援の活動や事業について熱い議論を交わした。また、高校生等の若者を対象にした労働関係法教育の普及では、出前授業を大阪でも展開してもらった。その成果は冊子「就職する前に、人を雇う前に知っておきたい基礎知識」初版（豊中市発行2013年）となり今も改訂を重ねている。

笹尾さん 私たちはあなたの思い、希望を引き継ぎ、より大きく育てます。

やすらかに

合掌

笹尾達朗さんありがとう

元宇治市議会議員 西川 博司

私と笹尾さんは40年来の友人です。20歳代には労働運動と社会を変革する運動、30歳代には労災・職業病や在日外国人の人権擁護運動、40歳代には環境運動などを中心に活動を展開してきた仲間です。その過程で笹尾さんは私の良き相談相手でした。

26年前に私は宇治市議会議員になりましたが、それから少し後に「NPO法人あったかサポート」が設立されました。「あったかサポート」の活動は私が議員活動をしていく上で、役に立つことが多くあるので、時間を割いて参加しました。残念ながら私の力量不足のために十分に利用出来ないまま年月が推移してしまいましたが、私が運動に行き詰った時や社会の動きが読み切れずに、どのように行動して良いか迷った時には笹尾さんに教えてもらいに事務所を度々訪問しました。

私は67歳の時に、後継者を立てて当選させた上で議員を引退することとし、6年前に後継者を当選させて引退しました。

さて、議員を引退した後も「あったかセミナー」などの受講に力を入れ、「あったかサポート」を本格的に活用しようと思いましたが、その矢先に笹尾さんが病気で倒れ、帰らぬ人となりました。私より年が若く元気でこれからまだまだ活躍して欲しかったのに大変残念です。今後、笹尾さんが生前取り組んで来られた運動の精神を学び、活動が続けたいと思います。

笹尾さん、ゆっくり休んで下さい

西坂 太郎

私は、郵便局における労働組合運動にかかわっていた頃の笹尾さんの姿を想い出してみました。

1970年代頃の組合運動は、ストライキ権回復闘争、機械合理化反対、合理化病（職業病）絶滅等々闘いの連続でした。当局も、高揚する組合運動に対してアメとムチの労務政策を進め、組織の弱体化を図る攻撃を強める時期もありました。そうした激動期に昼夜を問わず組合員の先頭に立って活動を進めておられました。

また、闘いの戦術としての業務規制闘争において、当局の弾圧をはねのけ闘った姿を劇にして全国文化祭に出場、弾圧をする側の課長役を演じた笹尾さんの姿、演じ終えた後の笑顔、忘れることはありません。

一方で、あいつぐ合理化の中、多発する公務上災害に対して、労働組合が組織した「労働災害職業病対策会議」にかかわり、専門家や他労組とも連携し講演会や交流会の開催、又、罹患した組合員の救済に向けた公務上災害認定申請のサポート等、事務局担当として中心的に活動しておられました。

こうした活動の経験が「あったかサポート」の原点にあるように思っています。

笹尾さん、走り続けました。ゆっくり休んで下さい。お疲れ様でした。そしてありがとうございます。合掌

追悼

藤原 功稔

訃報に接した後日、古い書類を整理する機会があった。その中にNPOの設立へ向けた準備の会議資料があった。細かな経緯は忘れたがその集まりに私も参加していた。確か今の事務所だったか？旧知の笹尾氏らの呼びかけに応じたものだった。当時私は自治体で労政関係の仕事をしていたので、何かの役に立てばという思いだった。行政の果たす役割の限界が指摘され海外に倣い日本でのNPOの定着が目玉されている時期だった。仕事でいくつかのNPOの活動に触れる機会もあり多少のNPO制度の知識もあった私は、当時のNPOは理念が先行し従来のボランティア活動の枠から脱することができないのではないかとという危惧を強く感じていた。それは行政のNPOに対する予算措置にも見て取れたように思う。活動を下支えする社会基盤があまりに貧弱ではないか、これでNPOは展望を持って事業を展開することができるとは、そう感じていた。結局、会議では笹尾氏の思いを積極的に後押しするような発言ができなかった。今となつては、私の見識の浅さと構想力の乏しさに恥じ入る次第であるが。しかし彼は私の危惧などは物ともせず、自らの思いと多くの人たちの思いを受けとめながら誠意をもって突き進んでいった。そしてライフワークとして「あったかサポート」と多くのネットワークを築き上げてきた。その行動力と多くの人たちに与えた励ましに感謝。

合掌

追悼「笹尾達朗」さんへ

山上 義人

笹尾さんとはじめてお会いしたのは、たぶん、2009年末の第1回反貧困ネットワーク京都の全体会であつたと思う。

いつもの快活な笹尾節で名刺交換をさせていたのを記憶している。あれから10年余り、毎年のように様々なイベントや講演会などで柔和なお顔を拝見していた。いつも、気さくに「よお」「こんちわ」と声をかけあう間柄だったと思う。

笹尾さんは、私を知る限り、どんな場所でもいつも手を挙げて「疑問」や「問いかけ」を繰り返されていた。私もそれに触発されて「意見」を述べさせていただくことも多かった。私は、笹尾さんに一種の「批判精神」のアソシエーションの姿を見ていたのだと思う。

そうした知人を失ったことは、残念でならない。私が継続してきた「反貧困ネットワーク京都」の活動も最近は低調になってきているが、笹尾さんたちが行われている「あつたかサポート」の講演会など、は多くの聴衆を集めてきた。もちろん、世の中のタイムリーな企画をつむいでこられたこともあろうが、笹尾さんのパーソナリティによるところも大きかったのではないかと思う。

笹尾さんの遺志を引き継いで、「あつたかサポート」が社会の様々な課題に正面から取り組まれていくことを期待している。

故笹尾達朗様への追悼の言葉

山崎 由紀

あつたかサポートの出前授業を通じて、私は笹尾さんに親しくしていただきました。大勢の人の前で話をした経験がなく、知識も未熟で、即戦力に欠けている私でしたが、笹尾さんは講師の一員として参加を認めてくださいました。身近な社会問題と向き合うために何を伝えるかの議論や、授業を想定したロールプレイングなど、勉強会を行ったことを思い出します。「もつと問題意識を持たなあかん！」と指摘しつつ、「うさぎとかめ」のイソップ寓話に例えて「山崎さんは亀やかからな」と言ってくださいました。応援してくれる人がいるということは、本当に心強いものです。「ゆっくりでも自分のペースで頑張ればいいのだ」とその言葉に勇気をもらいました。笹尾さんは、社会で一番深刻な問題は「孤独」だと述べていました。だからこそ、人に頼る力を持つこと、心許せる仲間をつくるのが大切だと語ってくれました。それは、あつたかサポートの出前授業のメッセージにもなっています。私は、笹尾さんから「人のつながり」という財産をいただき、今も多くの方々に支えられています。

「しんどい問題にぶつかったら一人で頑張らなくていい。遠慮なく他人を頼らないといけません。人は頼りにすれば、頼りになってくれます。頼つたら、次は相手の相談や信頼に応えなあかん」。この笹尾さんのメッセージをみんなと一緒に伝えていきたいと思います。笹尾さん、ありがとうございました。

大分からのカボス

ラポール学園 河原田 真弓

ラポール学園の同僚であつた半田さんを通じて笹尾さんと知り合ったのは、まだ郵便局にお勤めの頃。郵便配達中にばったり道で遭遇したり、保険の勧誘を受けたりしたことも今では懐かしい思い出です。

勤めの傍ら、先輩である半田さんや他の仲間とともに労災被害者支援活動を行い、時には被害者が「裁判で勝って保証金が入った途端、何の礼もなく去っていったもつた」と嘆きつつも、確固とした信念は揺るぐことなく、労働と社会保障の問題解決に向けて取り組み続け、その活動があつたかサポートへと発展していくのを目の当たりにしました。

笹尾さん等の真摯な情熱には頭の下がる思いで、気が付けば私もあつたかサポートの会員になりました。

仕事の上でもあつたかサポートとは協働関係にあります。時には赤くなったり青くなったりしながら、あつたか社会の実現に向けて熱く語る笹尾さんの大きな声とともに打ち合わせすることが、年中行事の一部でした。その来園の都度、笹尾さんの故郷から届くカボスのお裾分けに与ること20余年。カボスを見ると、「河原田さん！」と言いながら、笑顔で事務所に現れる笹尾さんの姿が賑やかに浮かびます。

カボスの果汁をサラダに混ぜると、味が締まり、美味しさが増します。

今の社会の課題に焦点を当て、「あつたか人生」の拡大に向けての取組を検討する上で、笹尾さんは

常に、カボスのような役割を果たしてこられたように思えます。

これからは天の上からになりますが、引き続き皆を鼓舞し、示唆を与えてください。

さみしいけれど、安らかに

八幡市長 堀口 文昭

「文さん、元気か。あのな〇〇しようと思ってるんやけど、どうや？」

笹尾さんからの電話は、大体こんな感じで始まる。それは、私が市長になってからも変わらない。〇〇は、講演会や勉強会として啓発冊子作製など様々だ。市町村は、労働問題や雇用問題に関して担当部署はあっても、法的な権限がないため、苦手な分野である。

八幡市も例外ではなく、笹尾さんからせっかいい提案をもらっても、本市職員だけではむづかしく、笹尾さんだのみになる傾向がある。（これは、私の指導力不足もありますが……）

コロナ禍前の2020年1月にできた冊子「知っておきたい「働き方改革」の基礎知識Q&A」もそんな電話ではじまった。

冊子完成後、落ち着いたら今後について話をしようということになっていたのですが、その機会は来ることはなくなりました。

私の公約である人とまちの健幸（健康）づくりに更に笹尾さんの力をもっていたのですが、残念です。安らかに眠りください。

四十有余年

—追悼 日本人の莫逆の朋友・笹尾達朗君を偲ぶ—

金里 博

僕らは君が青年後期、僕が壮年初期に出会い以後、朋友愛は途切れる事なく四十有余年、昨年、後期高齢者の僕が君を見送った。

何と真逆なことだろう。神のいたずらにしては度が過ぎ釈尊の冗談だとしても許しがたい……

最初に会ったのは、南区にあった「防災センター」で君は頑として原付免許を取らなかった。京都中央郵便局の歩行配達職員でそして、同センターの中心メンバーの一人だった。僕は三十八歳の在日韓国人一世で枚方市教育委員会朝鮮語教室講師だった。君と知り合うまで僕は小学校と中学校で満身創痍の民族差別を受け日本人を憎み、忌み嫌い、大学卒業の数年後に出会った亡き上谷耕造君以外の日本人にこれっぽっちの親しみを感ぜなかつたが、一年が過ぎ、三年が過ぎ、十年が過ぎても君は日本人でありながら爪の先にも民族差別心がなく、当時は殆ど見いだすことの出来なかつた本物の「インターナショナルリスト」で、韓国語こそ習得出来なかつたが暖かく、親切で、見聞博く、知性豊で、二心無く進取性強く、後に「修士」の学位をも修得した、僕の人生で得た素晴らしい異民族の朋だ。

今、静かに目を閉じその四十有余年を回顧すると、しっかりと目をつむった「あつたかサポート」の開設が第一。何度も重ねた相互自宅訪問での交流・交歓。亡き八幡市市会議長・上谷耕造君の選挙支援。僕の詩集の出版祝賀会。そして抱き合っ

て喜んでくれた僕の韓国語文学受賞祝賀会。韓国文化観光省の韓国語語文防人選定受賞祝賀会等々……。ああ、友よその君がなぜ……。が、朋よ、まだ眠るでない、君の笑顔と堅い信念はビジョンと共に消えない！ だから、すつくと立ち遙かを指さし我らに叱咤激励を忘れるなかれ、インターナショナル・我が莫逆の朋よ……

白ヘルと桜島と汗臭さ

柏倉 裕

学生になりたての頃、自衛隊沖縄派兵阻止・北熊本現地闘争というのがあった。もう50年近く前のこと……。上野から鹿児島行きの夜行列車「桜島」に乗り込み、北熊本の本自衛隊駐屯地近くを終日ジグザグデモした。蒸し暑さと熱気と喉の渇き。白ヘルの労働者・学生で溢れるデモ隊の中に君もいたと分かったのは、帰りの車中だった。汗臭くて他のお客は寄り付かず、あの車輦だけデモ帰りの学生ばかりだったと思う。

4人席の正面に君がいた。「こいつ仏大（仏教大）やけどな、鎖鎌使うんやで」初対面なのに、昔からの友人と話すように関西弁がぼんぼん出てきて面食らつたのを覚えている。冗談かホントなのか分からない、漫才のような話が続いた。

白ヘルと桜島と汗臭さ。それが初めて会ったときの思い出。名を笹尾達朗といい、同じ歳と分かったのはそれから数年も後のことだった。君は京都、オレは東京で、めざすものを追いかけて活動した。

ひょうきんでおおらかで、優しかった。寅さんの柴又を見たいというので案内し、帝釈天に参りながら草団子を食べた。栃木の名湯・那須最標高の温泉にも行ったな。高木仁三郎さんお気に入りの旅館で、小川の流れるような露天風呂に星を見ながら浸かっていたっけ。

君はあつという間に逝ってしまった。人の生は水の泡のようなものなんだろうか。先に消えた君と、まだよどみに浮かんでいるオレとは同じ水の中でつながっている。オレの泡が消えるまで、君が残したものの役に立てることをしよう。

忘れられない笑顔

下田 明美

大切にしている本がある。読書好きの笹尾さんからいただいた1冊の本。笹尾さんの字で書き込みや、重要な個所にアンダーラインが引かれている。

2019年12月、何年かぶりにあったかサポートの事務所にいる笹尾さんを訪ねた。私の定年退職に伴い、雇用保険や健康保険等の相談と、学び直しについてどうしても笹尾さんの意見を聞きたかったのである。

「やあー！ 元気かー！」と穏やかにニコニコと迎え入れてくれた笹尾さん。笹尾さんと夫は郵便局入局が同期。37年前私たちの結婚の際、披露宴の司会をしてもらった時からのお付き合いになる。お話し上手

で知識が豊富、今までにないタイプの人で非常に印象的であった。

当時は組合活動を通じてキャンプなどのレクリエーションが盛んで私も一緒に楽しんだ。笹尾さんに初めて女の子さんが誕生した際には、「あんな、名前は三喜子と言うんや。男男そして女や。三番目に喜ぶ子や！」と嬉しそうに話されていたのが忘れられない。

郵便局を早期退職してあったかサポートを立ち上げたとき聞いた時は、笹尾さんらしいと思った。ひとのために、あたたかい社会を実現したいそんな思いがあったことはすぐに理解できた。ひとにやさしく、ひとを励まし、ひとに愛され、たくさんの種をまいて逝ってしまった笹尾さん。ありがとうございました。

「学びは大切やで、学び続けるんや、リカレント教育やで」と言いながら帰り際に「これ読んどくといいわ」と言って笑いながら手渡してくれた大切な大切な1冊である。

優しくて、ハートの熱たかな九州男

下田 政弘

1974年、オイルショックの年に笹尾君は大卒、私は高卒で郵便局に入局、同期となりそれからのお付き合いです。

当時の職場は「スト権スト・反マル生運動」など労働組合も血気盛んな時期でした。気付けば彼は人前に立ち、話をしたり、宴会では十八番の「リンゴの唄」を熱唱してとても人気者でした。

ある時、岩崎宏美のヒット曲『ロマンス』の次の曲は、『センチメンタル』と予測的中させて、世相を読むなど非凡な才能を垣間見せたこともありました。

職場は民営化になり、彼はかんぽ生命保険に移り、社会保険労務士の資格を取り、バイクの免許を取り、NPOあったかサポートを立ち上げ、意気揚々と目標に向かって突っ走っていったのです。

彼の魅力に引きつけられた仲間がたくさんいます。道半ばの笹尾君の気持ちを繋いでくれると願っています。時々、空の上から大分弁でほやいたり、褒めたりしてくれるでしょう。ご冥福をお祈り申し上げます。

笹尾君を偲んで

本宮 昭久

笹尾君とは、あったかサポートの立ち上げをきつかけにして、共通の友人を介して初めて出会うことになった。それから20年近くの歳月が流れた。その間、法人理事会、学習会、出前授業、労働相談そして社労士会での集まりなど彼と共に過ごした場面や出来事が思い出されてくる。

彼が残した功績は多々あれど、その核心はやはり一貫して組織をひっぱってきた「牽引力」にあったと思う。スタッフ会議の場では周囲の者を叱咤激励するためにストレートなモノ言いはあったものの、それを含めて彼が持つその「力」ゆえに、今の組織を生み育て現在のかたちへと成長させることが出来

得た、と確信している。

まさに屋台骨を支えてきた彼を失った今、その跡にぽっかりと空いた穴の大きさに改めて気づかされている。しばし喪失感につつまれるとともに、その跡をカバーしてうまく回していけるのか、組織のこれからも案じられた。

しかし、入院先からの寄稿ににじませていた「社会との関りを最後まで希求していたのにそれが叶わぬ無念さ」をみると、また「彼が描く目標に至ることなく道半ばとなった無念さ」を想うとき、果たせなかった彼の思いをすくいとり、次へつないでいかなければ、と自分の心を奮い立たせている。

あなたが歩いてきた後にいく筋かの道が出来ている。私は今もそのうちの一つを歩き続けているが、どうかこの道が更に広く大きな道へと繋がっていくように見守っていてほしい。あなたが託した使命を果たすためにも。

やがて私もそちらへ行つた時は、その後のよもやま話を酒の肴に、昔に戻って一献傾けたいものです。

合掌

笹尾さんを偲んで

山本 喜久治

昨年の晩秋、半田氏から電話で笹尾さんの訃報を受けた時に、ある種の意外な感じにおそわれました。重い病気にかかり入院しているという知らせとその後、夏にはかなり回復したという連絡も受け、彼ならきつと復帰できる、一安心という心境でした。そ

れにしても、69歳を一期として生涯を閉じられ、まだこの後もやりたいこと、やらねばならないことは沢山あったと思います。私としても残念で仕方ありません。

彼とは学生運動というより、その後の組織活動で様々な交流がありました。

特に80年代の労働運動の転換という模索の時代に郵政の現場、職場活動の意味や実践方法など私は研究者の観点から、笹尾さんはまさに現場の観点から解答の見えない問題に熱心に論議したことが記憶に刻まれています。

時代もバブル景気、その崩壊、そして金融危機からデフレ不況と、労働者にありつたけのしわ寄せを負わせる社会が到来しました。笹尾さんが一身の決断をし、あつたかサポートを立ち上げたのはまさにこんな時代の幕開けで、英断でした。自立した社会運動家として活躍する姿を、東京から畏怖の念をもって注視していました。

必要な時に、必要なものを人に届ける、これこそ社会運動の真髄です。笹尾さんとあつたかサポートはこうした活動を展開し、労働者受難の時代に一点の灯火を掲げました。貴重な実践です。京都で研究会や会合を持った時に、笑顔で大きな声で「ドクター、これどう理解したらええのかな」と難題に食いつかるような質問をいつもしてくれました。まだ答えられないまま、旅たたれてしまい、ご免と云うしかありません。難題に少しでも答えられるよう、今後も勉強を続けます。

合掌

優しい笑顔が忘れられません

大阪地域合同労働組合 木本 憲雄

笹尾さんとは、一足早く旅立った兄の紹介でした。

私が、労働組合の学習会の講師をしてくれる社会保険労務士を探していたところ、紹介されました。

社会保険労務士は多くが企業の顧問契約などを結ばれていて、労働者側にたった講師は敬遠されがちです。ところが、笹尾さんは私の申し出をふたつ返事でお受け下さり、その問題についての所見を述べられました。私はすぐに彼の認識の深さや経験の豊富さを理解しました。

はじめて講師をお願いした学習会は2017年の秋でした。

その後は、3年に一度はお世話になっていると思います。講師は快く引き受けてくださるのですが、事前の打ち合わせも丁寧でした。弁護士などにお願ひするときは、とりわけて打ち合わせ時間を設けず、特に最近ではメールのやり取りだけで学習会本番ということが多いのですが、笹尾さんにお願ひすると、京都の事務所に出かけて、打ち合わせをお願ひすることになります。当然といえばそうかもしれませんが。そのたびに、食事に誘っていただいて、却って気を使わせて申し訳なかったと思っています。1時間余りの学習会でも本当に丁寧な対応をされる方でした。あつたかサポートでのイベントにもパネラーとして幾度か参加させていただきましたが、どのような話をするのか、どのくらいの時間話すのかという目的ではありましたが、発言者同士の懇親もかねた会

食を準備されるなどの気の使いようでした。学べべきところが非常に多くありました。

また、当組合の大会にもわざわざ京都から挨拶に駆けつけてくださったこともありました。議案書掲載の組合スローガンについて「反対」や「撤回」とかが多すぎるのではないかと、もともとポジティブなスローガンのほうがいい、と笑顔で指摘を受けました。確かにご指摘通りだと反省し、翌年から、表現をかけることにしました。丁寧・繊細ではありますが、一方で言うべきことは言う人性格者でもありました。

あったかサポートの活動はしつかり京都を超えて根づいています。出前授業などの取り組みは先駆的で時代の要請に適合するものでした。笹尾さんの残した遺産は本当に大きく、また、重要です。充分仕事をされたと思いますが、本人にしてみれば、思い残すことも多かったでしょう。

時の流れには逆らえないことは充分理解できても、優秀な先輩たちの旅立ちはずぐに、呑みこむことはできません。本当にお世話になりました。

労働組合の立場で彼の遺産をどう受け継いでいくのか、彼が私に残した宿題だと肝に銘じています。ご冥福をお祈りします。

合掌

笹尾追悼！そして今後

竹原 八郎

私は、「ああでもないこうでもない」というタイプだ。

そのころ大学は全共闘運動の時代。時代の風に共

感しながらもああでもないこうでもないと考えながら「赤い手拭いマフラーにして二人で行った横丁の風呂屋：窓の下には」琵琶湖疎水という暮らした。卒業が1年ほど後に迫ってきたが田舎に帰る選択肢は閉ざしていたので、就職していわゆる労働者になるんだろう。労働者でずっと生活していくなら労働運動のことを考えないわけにはいかない。そんな時友人から学内に労働運動を重視するグループがあると聞き出入りするようになった。

そこで笹尾に出会った。彼は「ああならこうだ」というタイプに見えた。

話はとぶ。笹尾は郵便局に就職して労働運動を始めたが、そこでの運動に限界を感じたのか社労士の資格を取って仕事をやめ、後のあったかサポートにつながる運動をしていた。そしてあったかサポートは立ちあがった。会員になり、総会・催し・講座にスケジュールの都合がつく限り参加し、「ああでもないこうでもない」という質問をするのが私の笹尾への協力だった。催しの後の懇親会などにはビールにつられて積極的に参加した。

そんな時、2014年の初夏のころだったろうか、「あったか情報」の誌上インタビューを受けた。その中で最後の質問は「ところで竹原さんは、NPO法人あったかサポートの設立当初からの会員です。当会の活動とNPO法人「使い捨て時代を考える会」の活動とは、活動の目的も性格も異なります。ご自身の中で折り合いは、どのようにしているのでしょうか」というものだった。

私の答えは「あったかサポート」と「使い捨て時代を考える会」の目的がそんなに異なっていると

思ったことはありません。あったかサポートに参加したのは同じ学校で二十歳前後から付き合いのあったSさんが、それまでの仕事を止めて「あったかサポート（当時はまだその名前はなかったのですが）」の活動に専念されるということを知ったからです。私自身の夢を「あったかサポート」というジャンルで実践してくれると感じたからです。今の社会の構造が、物の使い捨て、食べ物の使い捨て、人の使い捨てであることを多くの人が実感する「今」だからこそ、平坦な道ではないでしょうが次の時代の可能性が見えてきたとも言えるのではないのでしょうか。そういった意味で両方の会に所属していることに違和感はありません」だった。

後日出会ったときの笹尾の言葉は「（いつも何を言っているかわからないが）この度は論旨明快ですね。（いつもの）ガッ・ハッ・ハッ！」だった。笹尾が最後の時を過ごした2020年。それはコロナ禍が今の社会が格差・切り捨て・使い捨ての時代であることを浮かび上がらせ、笹尾の目指したことが時代の要請だったことがはっきりした年だった。今「あったかサポート」にとって、笹尾の思いと時代の要請を実践していくことが課題となっているのではないだろうか。

笹尾さんを偲んで

福祉工房P&P・理事 西村 秀昭

「ヒューマンリンクスがあったかサポート、どっちがいい？」とりあえず設立総会まで1週間しかないんやけどな、それまでに名刺とパンフレットと資料を

印刷して……」む、無茶なことを……剛腕と言えど剛腕
自分の熱い思いを次々と形にしていける笹尾さんの
行動力にずっと感服していました。

それからP&Pがコトアルごとに「笹尾さん、聞いて
ほしいんやケド……」と、誰にも言えない不満を「あつ
たかサポート」に持ち込みました。キマッテ椅子の背
に持たれて、腕組みして、ニコニコ笑いながら、「そら
アンタなあ」で始まる紋切り型の笹尾節。ヨォー待つて
ましたーウツブン解消！

また、こんなことも……「あつたかサポートとアンタ
のどこにいっしょにせえへんか？」ナルホド！「あつた
かサポート」のような強固で正しい理論部隊があれば、
新しい福祉事業ができるかとも思ったコトもありまし
たが、実現しませんでした。でも、それから社会が生
み出したさまざまな病理に連携してこれたと思います。

いつだったかのある日、納品に伺ったとき、事務所
がマツ暗。でもドアは開くし、入ってみると、ボンヤ
リ椅子に座って、いつになく元氣のない笹尾さんが。
「どないしはったんですか？」「体調がな、よくないん
や」とポツリ……。オイオイ、こんな笹尾さんとかち
うやんと思いつながら「ムリしはらんとつてください」。

そのあとP&Pを辞したボクは、半年以上笹尾さん
と会うことがなかったのですが、P&Pの運営委員会
で久しぶりの拝顔、あいかわらずいろんな課題を抱え、
その議論中に久々の笹尾節……「アンタが戻ってくれば
いいんや！」。ホツとしました。元氣にならなはった！

笹尾さん、早すぎますよ。とりあえず、課題をいっ
ぱい作つときますから、上から「アンタなあ……」と
笹尾節を喰ってください。あつ、やつぱり上から言
われるのは、イヤかなあ……。

笹尾さんを偲んで

椎名 みゆき

私があつたかサポートに関わるようになったのは、
社会保険労務士登録の数年後に、自宅にDMが
届いたのがきっかけであつた。20年弱会社員を経て
会社が倒産し、同様の境遇にあうかもしれない会社
と労働者のお役にたきたいとの思いで、社労士業を
始めたばかりの私にとって、あつたかサポートの
「目的」に心を惹かれた。その数日後にはあつたか
サポートを訪ね、笹尾さんにその思いを伝えたこと
を覚えている。

その後、笹尾さんからの声かけに応じられる範囲
で、労働相談員、あつたかの冊子の編集、企画の担
当のお手伝い等をさせていただいた。

思い起こせば笹尾さんは、本当に稀有な方だった。
時には、若輩者の私が人生の先輩である氏にたてつ
き、時には個人的なことを相談し励まされ、時には
氏の「思い」の強さに感動し、たくさんのことを学
ばせていただいた。

昨年春に入院したとお聞きした時であつても、
必ず元氣になつて戻つてこれると信じて疑わな
かつたので、お礼の言葉すらお伝えできていない。
この場をお借りして、天国の笹尾さんにお礼を伝え
たい。

さて、残された私たちにできることは何か。でき
るのであれば、天国の笹尾さんに相談したいものだ
が今となつては叶わない。せめて「目的」を再確認
し、今後の方向を探っていきたい。

「助けたい」気持ち

白田 一彦

「楽をすることは悪いことではない」と言われた
気がした。

それは、ある仕事を一緒に進めていたときのこと
だ。筋を通したい気持ち強い私は、この作業は当
方がすべきで、相手に任せることではないと考えて
いた。それを察したように、彼は「あんたは人に助
けてもらうのがへただからな」と言った。私は「受
援力が弱んだよね」と応じた。

「受援力」とは「助けを受け入れ、人に頼ること
ができる力」のことだ。阪神淡路大震災後、ボラン
ティアの支援を受け入れる能力という意味で使われ
始めた記憶している。そのことを、もちろん彼は
知っていた。

人は「助けたい」気持ちを持っている。困ってい
る人がいれば見過ごせないし、能力を発揮して社会
にも貢献したい。ときには人の「助けたい」気持ち
を引き出して助けてもらうことが、その循環の中に
あるならば、結果として「楽をすることは悪いこと
ではない」。

人が持っている「助けたい」気持ちを引き出せる
人は、いつも、人を「助けたい」気持ちを持って行
動している人だった。



追悼

中本 通雄

笹尾氏が昨年五月に入院されてから九月中頃まで、何度か直接電話を貰っていました。病状や体調の事には殆ど触れることなく退院後の社会復帰に向けての体力・筋力の回復に関するリハビリの話ばかりで、退院したら氏の自宅でのストレッチや歩行訓練の手伝いをしてほしいとの依頼でした。私たちは同じスポーツジムで長年一緒にトレーニングした仲でした。

しかし投薬の副作用で予定していた治療スケジュールも延期されるばかり、九月中旬以降は笹尾氏からの着信もなくなっていました。

振り返れば長い付き合いです。私が高校を卒業し郵便局の現業職場に就職した一九七七年、既に働いておられたのが笹尾氏。「国鉄」「郵政」のスト権スト反マル生闘争等労働運動の盛んな時代でした。その職場には大卒者はごくごく少数で色んな意味で「変人」と見られていたと思います。そんな中、社会の見方、労働運動や社会運動の意味を熱心に問いかけられ、共に活動するようになっていきます。

以来四〇年余り、上から目線での物言いに反感を感じつつも、社会との関わりを一途に追い求める姿に引っぱられてきました。

法人設立後は後方支援サポーターの一人として、様々な取り組みを応援してきました。

コロナ禍で相談活動にも益々力を注いで下さる事を願っていましたが、残念でなりません。

追悼

立石 健太郎

記憶を辿るともなく、ふとした時に思い出される数々の会話。

「わし一人では何もできんからなあ、人の力を借りてなんぼやねん」：事務所で雑談をしていた時。

「自助には限界があるし、公助にも不安がある。共助のシステムを創るためには『共生の思想』が絶対に必要やねん」：あったかサポートの定款変更の際して、その考え方を聞いたとき。

「この問題の本質はなあ、*the quality of life*（クオリティ・オブ・ライフ）なんや」：たくさん有り過ぎて消化不良です（笑）。

笹尾先生。僕はまだまだ、あなたから学ぶ事があつたはずで、そして、まだまだ学ぶ時間があると思っていました。会えなくなるなど、想像もしていなかったから。

でも、話したことは沢山覚えていますよ。それらは、思考の合間で笹尾先生のことを思い出すきっかけにもなるし、学びきれいなくても、消化不良でも、記憶の断片は、自分次第で昇華させることもできる。

まるで、いつでも会える先生がいるみたいだ。というのは、違うか。

そうか…「心の中で生きる」ということか。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

邂逅

樫木 庸弘

私が笹尾さんと出会ったのは、リーマン危機後しばらくの時期。寺内製作所の山本会長（当時社長）の紹介で、秋季セミナーに参加させて頂いた時でした。笑顔が印象的でした。不況やそれによってもたらされた様々な問題で、心が碎かれていた時に会え、学びの機会を頂いたことは、私の人生にとって幸運だったと思っています。

その後、更に『あったかサポート』との関わりを深めることとなり、理事を拝命することになりました。その過程で、笹尾さんの熱い信念や思いに触れ、自身を見直すきっかけになったと感謝しています。又、笹尾さんの人柄によつて集まった方々が、それぞれしっかりとした考えをお持ちな上に、忌憚なく話をされたので、ありがたかったです。

そして、あの笹尾節。会報誌に綴られる文章。今時の方には重いかなど感じる言葉。そう思う一方で、岩波文庫を読んでいた学生時代を思い出しながら、その独特さを楽しませて頂いてました。

笹尾一家とも言えるこの包容力あふれる集団に参加させて頂きましたが、一人前になる前に去られた様な寂しさを感じています。

遺志を引き継いでとか格好良いことは言えません。とは言え、人は一人ではさみしいものです。自分なりに人との関わりを深めていこうと考えています。

その機会と想いを与えてくれた笹尾さんに感謝、感謝、感謝。

笹尾さんとの思い出に思いを馳せる

高橋 尚子

「よおっ」といっても突然現れる笹尾さんが、昨年11月今度は突然いなくなつた。

私と笹尾さんは2009年、反貧困運動を通じて知り合った。歳の差を感じさせないくらい初対面から気が合つて「あんた、気に入ったわ!」とお眼鏡にかない、それから何かとお声掛けいただく機会が増えた。

多くの人にも出会わせていただき、あつたかサポートへの仲間入りもできた。

その後2年ほど机を並べ同僚だった時代もあった。ちょうど釧路出張に行かれた帰りに東日本震災に遭遇され、空港で一夜を過ごされたのはもう10年も前になるのかと記憶の糸をたぐりだすと、思い出がいつぱい出てきた。

あらためて、長年にわたり本当にたくさんさんの知恵と知識、そして機会を与えていただいたことに心から感謝している。

私は笹尾さんのことをいつまでも忘れないし、笹尾さんが目指した未来像は忘れてはいけないと思っている。

真似はできないけど、自分の体の一部のように大切にされていた「あつたかサポート」を、仲間と一緒にこれからも発展させていきます。

笹尾さんありがとう、安らかに眠りください。

こんなに早くお別れするとは...

半田 敏照

笹尾達朗さんとこんなに早く永遠のお別れをするとは夢にも思っていませんでした。共通の友人であり、同志であつた小林竹廣さんとの突然のお別れしてからまだ2年少々しか経っていないのに彼も向こうに行ってしまうとは……

彼との一番の思い出は、やはり「あつたかサポート」の立ち上げに向けて一緒に動き回ったことです。約1年近く組織の目的・あり方、名称、財政等について議論をし、会員獲得にむけて、知人・友人を廻り、理事の就任を、特に理事長のお願いに何度か足を運んだこと、そして、無事に結成総会を迎え、「あつたかサポート」をスタートさせたことです。

彼は、ほぼ報酬なしで「笹尾商店」と言われるほどの組織にしました。

彼は、とにかく社会・労働関係、経済関係を初めとした書物、論文を多く読み、セミナーの講師をお願いするときも、必ずその方の著書を読み、また、総会の方針を書くときは、時代を先取るテーマを設定すべく多くの関係する本を読み込んでいました。

こうした彼の物事に没頭する性格と組織の維持・発展に力を注いだことが、知らず知らずのうちにストレスになり病魔に冒されたのかもしれない。

今では天国で竹ちゃんと再会し、二人で酒を酌み交わしなら昔話に花を咲かせていることと思います。安らかに眠ってください。合掌。

つながり

社会保険労務士 杉原 純子

笹尾さんから事務所に電話がかかってくるとそれだけで事務所に笑いが起きる。受話器の先から「笹尾ですう〜」と言う大きな声が聞こえ、私に電話を替わる前からわかるからだ。その後の電話では、議論が白熱し、言い争いになることもあつた。最後には、笹尾さんがもういいわと腹を立てたり、私がいよいよですとなったり。2007年から労働関連法教育の出前授業を一緒にさせてもらって13年。思考も、成育歴も価値観も違うからいつもぶつかる。ぶつかりあつて新しい答えを導き出し私の身になる。そんなやり取りを続け笹尾さんは私を成長させてくれた。授業では、生徒たちに社会に立ち向かえ、と挑発し、労働法や社会保険の知識を持ち、どう働きながら生きぬくか、知は力なりと説いた。君たちは知識も持たずに競争社会というジャングルに放り出されるようなものだ、正社員になれずとも自分を責めるなど説いた。そして、誰かに頼ることは力。頼るためには自ら大丈夫かと声をかけなさいと。仲間を作り生き抜く力をつけなさいと。今もあつたかサポートが出前授業で大事にしているメッセージだ。災害や非常事態が起きるたびに言われる「つながり」。もうずっと言い続けてきている。その笹尾さんが病床でメールでしかつなげられない。その文字すら打てず電話もとれなくなつた。ご自分の死をもつて最後まで私に課題を与えた。つながるとは、寄り添うとは何かを。これから先もずっと自分に問い続

けるのだろう。笹尾さん心から感謝しています。成長させてくれてありがとう。そして、これからも宜しく。

追悼

木村 千代子

私が『あったかサポート』、笹尾さんを知ったのは、十二三年前、小さな新聞記事でした。労働に関する知識や社会保障制度の理解を広める活動をするNPO法人が『働く前に知っておきたい基礎知識』という冊子を作った、というものです。住所が京都であることを知って、嬉しくて翌日には電話をし、翌週には『あったかサポート』の事務所に行ったのが始まりです。それまでモヤモヤと頭にあった形にならなかった自分の思いややりたいことが、笹尾さんが具体化して実際に活動するために立ち上げた『あったかサポート』にあったことは本当に幸運な出会いでした。その後運営スタッフとして関わることで、物事の見方、視野も広がったように思います。

セミナーの実施、発信活動とともに、参集される方たちに多くの出会いの機会を与えた下さったことは、笹尾さんの大きな功績のひとつです。志は近くても、興味はあっても普段は出会えない分野の方たち同士の出会いの場を多く設けて下さいました。私自身も、懐深く尊敬できる方、人間味あってお話しすると笑いが絶えない方、地位や肩書にとらわれず弱者の目線で指導、経営をされている方、裏方で謙虚に社会活動を支える方々と出会い、良い刺激をいただいています。人好きな笹尾さんによる、人同士の

『あったか』なつながりは、今でも硬派な社会活動を支える力になっています。

あったかサポートの活動を通して、身近な小さな活動が社会をより良くしたいと思う仲間を集め、そして社会に働きかける力になることを実感できました。感謝の気持ちを込めて、ご冥福をお祈りします。

笹尾さん、ありがとう

古家野 晶子

笹尾さんと初めてお会いしたのは、2017年8月のことでした。労働相談員対象の研修講師を弟の古家野彰平弁護士が担当するというので、その事前打合せで事務所に来られたのだと思います。あの屈託のないパカっとした笑顔で、あったかの活動を生き生きと話されるので、すっかり引き込まれ、ほどなくあったか情報冬号への寄稿を頼まれ、さらにあれやこれや声をかけていただき……笹尾さんの吸引力により、気が付くと「参与」になっていました。

あったかの活動に関わるようになった頃は、父が他界したばかりで法律事務所の承継のプレッシャーがあるうえに、子供も3歳と1歳になったばかりと大変な時期でしたが、1年のうちに子供の誕生と親の旅立ちを経験し、生と死は表裏であり、この世に生まれた赤ん坊とこれから旅立ちゆく人にこそ「あったか」い社会であってほしいという願いが生まれました。そこから、「あったか」の理念がストンと心に収まりました。その後、子育てや両立をテーマにイベントも企画させてもらいました。

出会って3年程なのに沢山のひと繋いでくださり、沢山のことを教えていただきました。旅立たれた日は、笹尾さんの魂を感じさせるような澄み切った空でした。そんな空に出会えると、笹尾さんが身近なところにおられると感じます。

一流の魅力的な方々がざっくばらんに歓談する場は、笹尾さんの自慢でした。これを復活させないといけないですね。心よりご冥福をお祈りいたします。

追悼

山代 晃義

笹尾さんとの出会いは、理事である半田さんのご紹介で印刷関連のお手伝いをさせていただいたときに遡ります。数年間お仕事をさせていただく中で、笹尾さんの裏表のない、まっすぐで、熱い心を持ったお人柄の魅力に惹かれていきました。

そうした中、弊社の先代が亡くなり、私が会社経営を引き継ぐことになりましたが、社員との良好な関係づくりや法令を遵守した職場環境の整備を目指しながらもなかなか残業が減らない等思いどおりにいかず、笹尾さんに相談させて頂きました。弊社の現状をお伝えしたら、必ず叱られるに違いないと覚悟していたのですが、笹尾さんは「社長が職場環境を良くしようと悩んでいる会社は、悪い会社ではない」との言葉をかけてくださいました。その言葉は自分にとって大きな励ましとなりました。

その後、お仕事をいただく業者としての立場を超え、大変光栄なことに「あったかサポート」のメン

バーに加えていただき、より身近に接することとなりました。その後も、お会いした時の笹尾さんの印象が変わることはありませんでした。常に高い理想を掲げ、困っている人がいると、その人のことを徹底して真剣に考える姿に深く感銘を受け、多くのことを学ばせていただきました。

笹尾さんが厳しい現実と格闘しながら、「あつたかサポート」を通じて追い求めていた理想は、今の時代、非常に貴重で大切なことだと思います。笹尾さんのように純粹で無私の心で理想を追求する方が、今の社会では、本当に必要とされていると思います。これからも楽しい話をしながら酒を酌み交し、もつと長くご指導いただきましたかったというのが率直な気持ちです。笹尾さん、本当にありがとうございました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



2018年秋



2016年8月29日
左から「報道するラジオ」水野晶子キャスター、
笹尾達朗常務理事、普段、出前授業の講師を務める古賀千恵子氏、杉原純子氏



2017年 京都市主催「きょうと地域力アップおうえんフェア」
特設ステージでDJと楽しくおしゃべりをする笹尾常務理事



2020年秋



2020年夏



2019年冬

あったか歳時記

(春)

賀茂の水面は……

上野 都

春宵の弔文 遺著を積みて書く

皆吉爽雨『泉声』

笹尾達朗さんが亡くなった。この「あったか歳時記・春号」が笹尾さんの追悼号になってしまった。依頼の約束通り書きはじめたが、これまではいつも原稿に載せる思いの向こうには笹尾さんが待っていた。しかし、今回は既刊の『あったか情報』を数冊取り出し、写真や文章にいる笹尾さんに宛てて書くことになった。

笹尾さんと出会ったのはもう二〇年以上も前のこと、まだ彼が郵便局員で手紙を配達している頃だった。巨大な郵政省という組織の末端で、家々を回る日々の明け暮れに、きつとあったかサポートを

興す芽を着々と育てていたのだろう。

NPO法人を立ち上げ新しい世界へ乗り出した笹尾さんに、何か記事を書いてくれないかと言われ、応援のつもりで拙い「歳時記」を書きはじめ、五、六年になるだろうか。

「ブンガクの文章はちがうなあ」などと不思議な編集者の評に励まされて、私も楽しみに担当を待つようになっていた。

フォントやルビ、カットまで注文をつけることもあった私の「歳時記」は、いつもきれいに仕上がっていて、笹尾さんへの感謝と次への元氣をもたらしていたものだ。

なき人の今日は七日になりぬらむ
遇ふ人もあふ人もみな旅びと

釈超空『春のことぶれ』
古泉千堅を悼む

笹尾さんとは最期に会うこともならず、私は送るしかなかった。追悼という痛みの涙も準備もなく、こちら側へ残されてしまった。

それでも送るものとしてのなぐさめは、笹尾さんの思いが結実してゆく仕事の過程を見とどけたことであろうか。

手もとに届く『あったか情報』の記事は、年々、広く深く社会に切り込んでゆく笹尾さんの仕事ぶりを伝えてくれていたが、その張りようを当り前のように見ていた代償がこの痛恨だとするならば、無情にも彼も私も旅人として行き交ったのだと納得するしかないではないか。

追悼号出て雨勝ちに花も過ぎ

西村和子

たぐさんの言葉が集まり、亡き人を追悼する。どんなに悲しみが語られようと、生きる人には季節は過ぎ、花さえ無常に咲いて散る

さまを見せる。花をぬらす雨も受けて、一人の亡き人のための追悼号だけが時のなかに置かれるのだ。そのページを繰る手が、何度も何度も亡き人をよみがえらせる。

私もその一人として、今は沢山の季節と歳時記のことばを慈しみながら、笹尾さんと過ごした歳月を旅のことばに変えよう。

もつともつと生きたかった人の思いを忘れないために。

桜のした 影と揺れあう笹舟に

亡き人乗せゆく 賀茂の水面は

上野 都



会員年会費または寄付金のお願い

NPO法人あったかサポートは、「労働と社会保障」に係る市民のコモンセンスづくりを進めます。

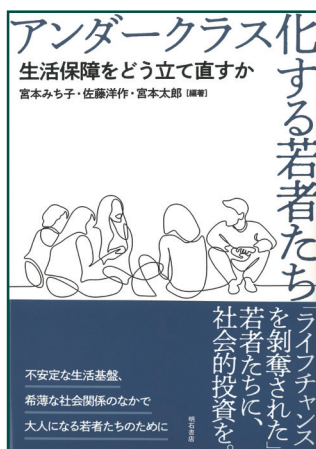
当法人の活動へのご理解を賜り、本年度も引き続き年会費または寄付金をお願いします。

- (1) 正会員は、年間1口5,000円です。個人として総会での議決権を有します。
- (2) 協力会員は、年間1口10,000円です。団体としての参加ですから総会での議決権はありません。
- (3) 賛助会員は、年間1口3,000円ですが、当法人の活動に直接参加できない方のための制度です。

従って、総会での議決権はありません。

尚、当会は認定NPO法人です。当会への寄付金や協力会員会費、賛助会費は、寄付金控除にご利用できます。

郵便振替口座 00900-2-264244 振込先 → 特定非営利活動法人 あったかサポート



宮本みち子・佐藤洋作
宮本太郎 編著
明石書店



中島光孝 著
日本加除出版

当法人に贈呈を
頂いた図書を
紹介しています

■ご相談とお問合せ

TEL 075-352-2640 FAX 075-352-2646

特定非営利活動法人 あったかサポート事務局

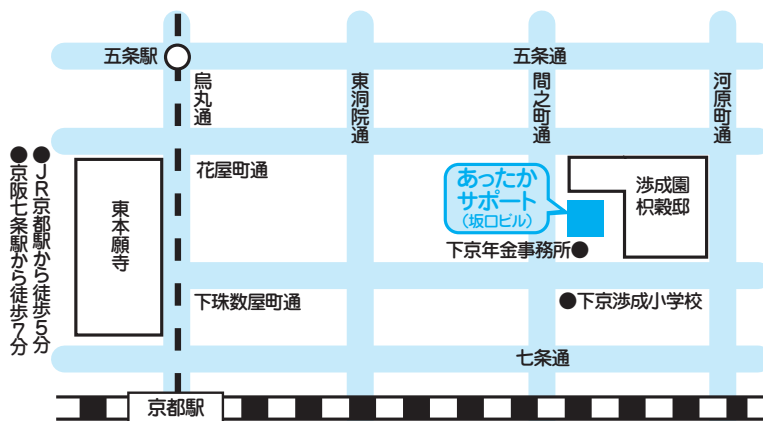
しげのり
山本賀則 (当法人・副理事長)

HP <http://attaka-support.org/>

E-mail attaka-support@r6.dion.ne.jp

●お問合せ時間 平日/10:00~17:00(土・日・祝日は)休業

●ご相談 土・日・祝日に関わらず、別途設定します。



編集後記

それにしても凄い！笹尾さんの人間力。今回の特集を組むために追悼文をお願いしたところ、短期間にもかかわらず、46名の皆様から寄稿していただきました。コロナ禍で外出自粛やリモート勤務など、生活スタイルや働き方が大きく変容する中、また経済環境が激変する中で、快く引き受けていただきました皆様には感謝申し上げます。追悼文には

笹尾さんとの出会いや付き合い、インパクトのあるやり取りが、各人各様のタッチで描き出されています。まさに、無私利他で「あったか社会」の実現に邁進した「人間・笹尾達朗」が浮かんできます。今回、多くの方に寄稿いただいた関係で校正が不十分な点があるかもしれませんが、「ご容赦ください。今回の編集にあたり写真データなどで山代印刷の岩尾様に「ご尽力をいただきました。あらためて感謝いたします。(山本賀則)」